

平成26年度水環境文化賞児童・生徒の部(みじん子賞)を受賞して

金沢市立田上小学校

この度は、平成26年度水環境文化賞児童・生徒の部(みじん子賞)というたいへん名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。

本校は、金沢市の南東部の丘陵地に位置し、創立明治6年の古い歴史を持っています。近年、金沢市近郊の急速な都市開発の影響で毎年、150名前後の1年生が入学するなど、児童数が毎年、増加しております。

学校の周囲は、住宅や道路・大型商業施設などの開発が進められていますが、一方で、里山の豊かな自然が残されている地域が混在しています。とくに、本年度は新たに俵地区の小学校が閉校となり、本校区域に加わりました。俵地区の児童はスクールタクシーで、太陽が丘区域の児童はスクールバスで登下校をしています。

地区の自然観察を進めたいと思う反面、熊や猿の出没があることが悩みです。

1. ユネスコスクールとしての取り組み

2009年5月12日より本校はユネスコスクールに加盟しました。ユネスコスクールは、地球規模の諸問題に若者が対処できるような新しい教育内容や手法の開発、発展を目指すことやユネスコスクール・プロジェクト・ネットワークの活用による世界中の学校との交流を通じ、情報や体験を分かち合うことを目的としています。私たちとその子孫たちが、この地球で生きていくことを困難にするような問題をについて考え、立ち向かい、解決するための学び持続可能な開発のための教育(ESD: Education for Sustainable Development)を推進しています。ESDは持続可能な社会の担い手を育む教育です。

本校のユネスコスクール活動は、里山を中心とした自然環境の中での様々な体験・調査活動を中心としながら、地域環境とそこに住む人々の生き方などについて理解を深め、新しい時代への生き方を考えることです。また、地域の伝統(能楽や農業行事など)を体験し、様々な人との関わりから理解と継承について考えていきます。

2. 受賞の対象となった主な活動の概要

1999年10月に金沢大学「角間の里山自然学校」が発

足し、田上町の通称北谷キタダン(金沢大学敷地内)での本校5年生児童による米作りが、里山メイトさんの皆さんのご協力の下に行われるようになりました。2009年をもって「角間の里山自然学校」は終了しましたが、里山メイトの皆さんとの活動はユネスコスクールの一環として継続され、本校の総合学習(ESD教育)の一環として、「キタダンでの60年前の米作り」は毎年行われ、現在に至っています。本年度の参加人数は、児童120名、里山メイト約35名。活動範囲は、金沢市田上新町に隣接する通称キタダンの棚田とその背後にある里山です。

キタダンに流れ込む沢水を十数枚の田に導入するための小水路の造営管理は里山メイトの皆さんにお願いし、年間を通じて清浄な水の供給が絶えない設計となっています。あわせて無農薬の稲作のため、田およびその間に点在する小さな池は、クロサンショウウオ、ゲンジボタル、モリアオガエルなどを中心とした様々な水生生物が生息し、絶滅危惧種の植物も存在しています。

児童はキタダンの沢水を利用した棚田での米作りと、そこに棲む貴重な同植物の観察を行っています(写真1, 2)。栽培する米の品種は「かぐらもち」というもち米で、毎年12月にはお世話になっている里山メイトの皆さんや保護者の方と共に餅つきをして、収穫物を味わっています(写真3, 4)。

この活動は、総合的な学習の時間に行い、子ども達の主体的な活動として「里山調査」を行い、調査したことを11月に地域や保護者の方に「田上っ子学習発表会」として発信。「キタダンでの米作り」や「キタダンの沢水に恵まれた動植物」についての発表です。

これらの調査も、里山メイトさんの皆さんからアドバイスをいただき、子どもたち自身が現地での観察や書籍、インターネットなどで調べたことをまとめ、プレゼンテーションを行っています。これらの活動は、これまでもそして今後もキタダンの自然を守り、その豊かな水環境を広く市民に知らせることに役立っています。

最後に本活動にあたり、手厚くご指導いただいている里山メイトのみなさま、このような受賞の機会をいただいた水環境学会のみなさまに感謝申し上げます。



写真1 棚田での田植え



写真2 棚田での虫送り



写真3 里山の稲刈り



写真4 収穫した餅米での餅つき